

授業料不徴収協定に基づく派遣交換留学終了報告書

所属(本学)	大学院 社会理工学研究科 社会工学専攻		
帰国時の学年	修士 3年		
留学先国	シンガポール	留学先大学	シンガポール国立大学
留学期間	2016年8月1日～2017年5月6日		

① 留学先大学(機関)の概略

シンガポール国立大学(National University of Singapore)

1905年に設立された歴史ある大学。近年、世界大学ランキングでアジア一位。

② 留学前の準備

約一年の留学であったため、修士期間を一年延長した。就職活動については、5月帰国予定であったため、シンガポールにおいてエントリーやテスト等、電話・ネットで可能な手続きは可能な限り済ませておき、帰国後に行動する予定とした。ただ、志望業界によって就活の時期は全く異なってくるため、事前に自身の留学時期との兼ね合いを十分に調べておいた方がよい。修士論文については、シンガポールに関する研究を行う予定で考えていた。いくつかテーマの候補を検討しておき、留学中に現地での調査、またヒアリング先等のコネクションを幾つか築いた上で、帰国後に担当教員と相談してテーマを最終決定して速やかに執筆開始するという計画を立てた。

留学情報の収集については、英語のみではあるが、シンガポール国立大学の Web サイトで概ね済ませることができる。また、英語での情報収集に不安がある場合は、ネット上で、同大学の日本人留学生のブログ等が多くあるため、そちらを参照しつつ準備も可能である。また、同大学に留学した東京大学の派遣交換留学生の詳細なレポートがネット上で公開されており、大変参考になる。ビザの手続きはネット上で完結する。また、大学内の寮手続きもネット上で完結する。

語学勉強については、事前の留学経験があったこともあり、TOEFL の勉強のみ行っていた。ただ、研究室で英文に触れる機会は多々あったためそれも勉強となっていた。よく言われることだが、日本にいる間に英語で会話する機会を可能な限り持っておいた方がよい。また Singlish(シンガポール英語のこと。発音等かなり癖がある。)を YouTube 等で軽く予習しておくとういと思う。

③ 留学中の勉学・研究

前後期で四つの講義を履修した。公共政策、住宅政策、不動産市場分析、都市計画史・理論、GIS 利用、中国語等を学んでいた。講義はレクチャー・チュートリアルに分かれており、レクチャーは基本的に聴講、チュートリアルはディスカッションおよびプレゼンテーションを行う。前者は毎週、後者は毎週又は隔週に行われる。

④ 留学中に行った勉学・研究以外の活動

旅行:日本からと比べて、シンガポールから東南アジアへの旅行が大変容易である。現地の学生、留学生等と、インドネシア・マレーシア・カンボジア・ミャンマーに旅行した。

スポーツ:シンガポールは、野球を除いて各種スポーツが盛んである。休日を利用して友人とサッカー・フットサルをしていた。また現地のアマチュアサッカーチームの友人に誘われ、マレーシア遠征に同行した。

ボランティア:学内、学外ともに各種ボランティアグループが多い印象。定期的に、現地のホームレス支援グループの、夜間支援活動に参加していた。

⑤ 留学を終えて、自分自身の成長を実感したエピソード

二学期目のアジアの都市計画に関する授業において、グループプロジェクトとして、マレーシアの大規模開発計画における計画提案を行った。グループでのディスカッション、レポート作成を通して、英語力、発言力やグループにおいて自分のなすべきことを考える力について成長を感じた。またシンガポールの都市計画家・建築家を批評として招待しての最終プレゼンテーションにおいて、プレゼンターの一人を務めた経験は、さらなる自己研鑽の必要性を感じたが、有意義なものとなった。

⑥ 留学費用

渡航費 往復チケットで約7万円

保険:東京海上日動 約10万円

生活費:正確に計算していないが、JASSO 奨学金(月10万円)で十分対応可能

⑦ 留学先での住居

学内寮に住んでいた。寮数は非常に多いが、大別すると、レジデンスとホール・カレッジがある。語尾にレジデンスがつく寮は、留学生、マスターやドクターが多く、それほど寮内での交流が盛んな訳ではなく、アパートメントに近い印象である。ホール・カレッジは、現地生が多く、交流が盛んであり、いわゆる大学の寮という印象(ホール・カレッジ毎に大まかな特徴があるよう)申し込み・手続きは全てネット上で完了できる。寮の所属希望は、1学期目は大体通らないが、2学期目からは希望の寮に引っ越しが可能なケースが多いようである。また、寮によって個室、シェアルーム等の形態や、キッチンやエアコンの設備は違ってくるので、よく調べておくといよい。ちなみに、熱帯のシンガポールのイメージに反して、意外と気候は快適で過ごしやすくエアコンを使うことはあまりなかった。(他の留学生たちと話していても大体同意見であった)

⑧ 留学先での語学状況

NUS の授業は基本的に全て英語であり、英語が出来れば問題ない。シンガポール生まれの学生は殆どバイリンガル(英語+中国語 or マレー語等)かつ、中国生まれの学生(高校・大学から等)が多く、学内では非常によく中国語を耳にする。英語に関して、日常会話等で不自由することは殆どなかったが、専門性が絡むグループプロジェクト等で苦勞することは度々あった。

⑨ 単位認定(互換)、在学期間

取得単位の互換を行う予定である。在学期間の延長は行っていない。

⑩ 就職活動

留学先:TOEIC 受験(シンガポールで受験可能)ES、Web テストを可能な限り済ませた

帰国後:テストセンター、説明会、OB 訪問、面接等

⑪ 留学先で困ったこと(もしあれば)

特段困ったことはなかった。

⑫ 留学を希望する後輩へアドバイス

NUS は勉強する環境が非常に整っている上、現地生のみならず大学の30%を占める世界中の留学生と交流することができます。また、大体の手続きはネット上で完了しますし、物事が合理的に進んでいくため、日本以外でもそういった環境を望むならば、ベストな国の一つといえます。